

多文化共生の教育に関する研究

授業モデルの開発

教育振興室 宋 英子

【キーワード】 多文化共生の教育 学習指導 内容系列表 授業モデル

はじめに

本研究では、子どもに身につけたい資質や能力を明らかにし、評価の内容・方法を工夫した授業モデルを作成し、その有効性を検証した。

研究の概要

小学校第6学年「アフリカを体験しよう」の学習を実践し、検証を行い、多文化共生の教育を進めるための授業モデルを構想した。また、実践と評価の検証は、第4学年「日本 フィリピン 両方大好き」の学習、第6学年「もっと知ろう！中国の友達のこと」の学習で試みた。

小学校第4学年「日本 フィリピン 両方大好き」の学習では、次のような単元目標を設けた。

【関心・意欲・態度】

自分たちとつながりが深い国の文化や生活等に関心を持ち、それぞれのよさを尊重し大切にしようとする。

【思考・判断】

自分たちとつながりが深い国の文化や生活等について調べ、日本と外国の文化の違いや似ているところに気づくことができる。

【技能・表現】

資料や外国の人との交流を通して分かったことを進んで表現することができる。

【知識・理解】

自分たちとつながりが深い国の文化や生活等を理解することができる。

表1は、第三次「深めるⅡ」学習の指導・評価計画であり、図1は「学習カード」である。

表1 第三次「深めるⅡ」学習 第13・14・15時の指導・評価計画

学習目標 学習内容	指導者の働きかけ			教科等の学習との関連	評価規準				評価方法
	支援・助言・留意点	学習形態	学習環境の整備		評価の観点				
					関意態	思判	技表	知理	
フィリピンの国の文化や生活等について、本やインターネット、インタビュー等を通して、進んで調べることができる。 ③ 1. フィリピンについて、何を調べるのか、学習のめあてを確認する。 2. 各自で計画を立て、調べ学習をする。 ・調べ学習の課題(学校、食事、遊び、言葉等) ・調べる方法(本、インターネット等)	・調べたいことをはっきり持ち、調べるようにする。 ・自分のめあてにそって、学習計画が立てられるようにする。 ・インターネットやプリントアウトの仕方を知る。 ・プリントアウトするときは、その資料が学習に必要な資料なのか、グループで相談して決めるようにする。 ・インターネットで調べられないときやもっと知りたいことがある場合、インタビューや手紙等の方法もあることに気づく。	一斉 個別	図書室の資料 パソコン プリンター	4年社会科学「健康な暮らしをささえる」「安全な暮らしを守る」(大阪書籍) フィリピンの国の文化や生活等について、本やインターネット、インタビュー等を通して、進んで調べようとしている。	◎	○			学習カード「フィリピンと日本のことを調べよう」 「調べたことをまとめよう」への記入内容 指導者用「チェックシート」への記入内容

*評価規準の観点のうち、◎は主たる観点であり、○は主たる観点を支える観点である。

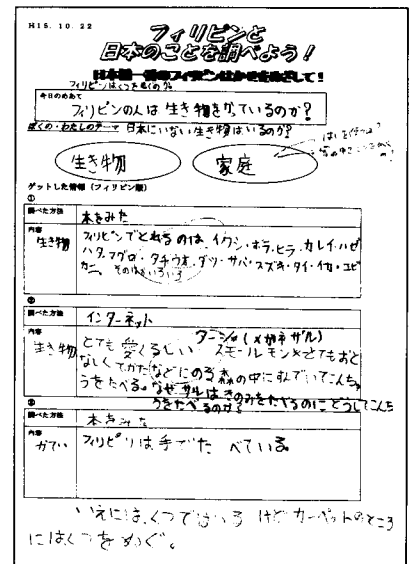


図1 調べ学習で使用した「学習カード」